

ここが聞きたい ずばり村政を問う！

一般質問は会議録に基づき、議会広報特別委員会で編集し、掲載しています。
詳細は会議録の閲覧ができます。

Q 農業基金2億円の使い道は

A あらゆる局面で柔軟に考える

太田 吉浩 議員



太田議員

6月議会で創設された農業基金は、9月・12月の補正予算において1億円ずつ、現在2億円の積み増しがな

れた。この基金の具体的な使い道はどのよう
に考えているのか。現
在、村の課題である野
焼きの維持、イノシ
シ・シカの有害野生獣
を観光資源（ジビエ料
理など）として活用す
る為の解体処理施設整
備などの原資としては
考えられないか。

農政課長

施行規則によると農
業基金は、①農業振興
②農地及び農業施設の
災害復旧、③天災によ
る農作物被害、④村長
が必要と認める事項に
関して使用が認められ
ている。イノシシやシ
カを観光資源としての
活用は、他の地域でも
行われている。南阿蘇
村特産のものを観光資

源に考えたい。



イノシシを使ったジビエ料理



わなにかかったイノシシ

村長

提言の駆除した有害
野生獣の観光資源とし
ての活用、野焼きの維

持にも柔軟に対応する
基金として考えて結構
だ。現在、TPP・減
反政策の見直しなど農
業の転換期を迎えてい
るので、あらゆる局面
に対応できる基金と考
えている。

Q 送電線容量オーバーの解消は

A 県を通じて国へ要望していく

太田議員

村でも太陽光発電を
中心に普及が進んでい
る。今後、地熱発電の
調査が進む動きも歓迎
したい。しかし現在、
立野から大津町までの

送電線が容量オー
バーを起こし、50キ
ロワットを超える買
い取りがストップし
ている。今後の地熱
発電開発等にも悪影
響を及ぼしかねない。
村は国や県、電力
会社に対して解消を
要望しているのか。

企画観光課長

県からの指導も仰
ぎながら、地熱の利
用についても検討を始
めた。久木野地区にお
いては、小水力発電も
計画まで完了したが、
送電線の問題で事業着
手まで至っていない。
解消にむけて、県の工
ネルギー政策課から国
へ要望をしていた、だ
くよう強く求めている。

村長

現在、地熱発電につ
いては2社が開発した
いと動きが出ている。
周囲の温泉への影響も
考えられるので県にも
相談しながら、慎重に
進めたい。
送電線の補強には8
億、9億掛かるという
事で容易ではない。



湯の谷地区の噴気井